翔生（しょうせい）

YEG

Symbol Logomark　これまで各地商工会議所で使用されている商工会議所マークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで親しみ易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト（若さ、機動、広い視野をもつ経営者ーYouth, Energy, Generalist）を表しています。

発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03-3283-7847
編集　広報委員会

平成8年（1996年）
3月1日号
通巻　第20号
（年2回　2月・11月発行）

ご・あ・い・さ・つ

CIN（商工会所情報ネットワーク）構想実現に向けて

日本商工会議所会頭　稲葉興作

商工会議所青年部の皆様方には、日頃から、地域を支える経済人としての使命感と責任感をもって商工会議所の活動に積極的に取り組んでいただいており、厚くお礼申しあげます。

さて、わが国が政治・経済両面において歴史的転換期にある中で、地域総合経済団体である商工会議所への期待と役割は益々大きくなっております。私どもは従来から商工会議所の使命達成のため地域振興や産業発展の支援に努めるとともに、商工会議所の活動基盤の整備を図ってきましたが、今後とも、変貌する地域の要望や商工業者のニーズに、しっかりと応えていかなければならないと存じます。例えば、日商では現在、21世紀を見据えた構想に本格的に取り組むことしております。それは、各地商工会議所の情報化を推進するTOAS（トータルOAシステム）を基盤に、全国513商工会議所・15万会員の連携強化を図るためのCIN（商工会議所情報ネットワーク）を実現しようとする構想です。各地におきましてもインターネット等の新しい情報ツールを活用した様々な試みが次々と動き始めております。日本を含めて世界が新たな地球作りに取り組み始めている今日、青年部の皆様方におかれましても、ベンチャー精神をもって企業経営に取り組んでいただくとともに、地域の将来を担うリーダーとして、新しい視点と新しい発想で地域経済社会の活性化を進めていただきたいと考えております。

現在、全国には408の商工会議所青年部が設置され約3万人のメンバーが、それぞれの地域で活躍をしておられますが、平成8年度におきましては、谷田新会長を中心に、全国に広がる人的ネットワークを十分に活用し、積極的な青年事業の展開を通じて、全国各地の青年部活動の一層の充実に向けた貢献、そして皆様方の連携の強化に大いに成果を挙げられますようご期待申しあげます。

「出会い」から「交流」そして「連携」へ

平成8年度商青連会長　松田祥吾

平成8年度、全国商工会議所青年部連合会（商青連）の会長という重責を務めさせていただきます。

戦後50年という節目の年度を終わり、新たなる半世紀のスタートの年にこのような全国組織のトップリーダーをさせていただく事は改めて、身のひきしまる思いです。

ここ数年、政治・経済・社会の仕組みが、大きく変わり、まさに「大変革時代」と言われております。私も現状認識として強くそのように思っています。

しかし、そのような時代こそ青年と言われる者が、既製の概念や習慣にとらわれることなく、行動すべきだと思います。まして、私達、商工会議所青年部は、その組織に会議所活動の一翼を担いと唱いあげていますが、今日のような経済環境の中で、真摯に、しかも柔軟に概念商工会議所との関係を考えるべきではないでしょうか。

そして、自らの企業や青年部活動に、ムリ・ムラ・ムダがあるならば、少しでも改善していかなければいけないのではないでしょうか。

そのような時、商青連では、そろそろ「出会い」から「交流」そして「連携」へ、「連携」しようではないかと呼びかけています。企業の枠を越え、単会とか地域の枠を越えて、我々青年らしい柔軟的な考えで、地域と地域、企業と企業の連携の輪を広げようではありませんか。

以上のような気概で精一杯頑張りたいと思います。どうぞ、ご協力の程、宜しくお願いします。

■平成8年度商青連役員

（敬称略）

会長	松田祥吾	青森部（青色）	長瀬一義
副会長	大村鶴利		大浜裕玉
	菅沼正弘		八戸隆雄
	吉泉幸一		新潟直樹
	竹内豊		高知
専務理事	河井達志	福島県（郡山）	福島
ブロック代表理事	入倉秀一	岩手県	岩手沢
	熊田稔		二戸
	松戸正二		青森
	伏江敦		八戸
	田中修兒		秋田
	川瀬雅人		横手
	倉橋		能代
	重信		大館
	藤原秀男		鹿角
	清美		仙北
	谷口		角館
	松川		佐竹原
総務委員長	本川紀一郎	山形県	鶴岡
財政第1（企画）委員長	佐立隆雄		酒田
財政第2（研修）委員長	別宮昭之介		米沢
広報委員長	鈴木肇		小林
特別委員長	鈴木靖夫	宮城県	藤沢
監事	少林一磨		都山
	石坂雄太郎		塩釜
	相原功		宮城
	佐々木正光		仙台
	小泉修行		石巻
	若月光伸		気仙沼
	小瀬高史		大崎
	江幡義治		栗原
	市村清二		名取
	黄塚右智		亘理
	長村宗司		角田
	伊勢		白石
	三浦		仙南
	松山博		福島
	菅原博		郡山
	鹿山		会津
	青木孝		喜多方
	青次		奥会津
	鈴木一郎		福島
	佐藤太郎		宮城

全国大会
最大の4000名登録で盛り上がる

大宮全国大会報告

第15回商工会議所青年部全国大会
埼玉県商工会議所青年部連合会
会長　大村晴利

『直接交流』『直接実感』『一期一会』を合言葉に、『第15回商工会議所青年部全国大会・大宮大会』を大成功のうちに無事終了することが出来ました。

これも偏に全国YEGメンバーの友情のお陰であり、埼玉県を始めとする関東地区役員の皆様方のご支援、ご協力を頂いた賜と深く感謝申し上げる次第です。

主管をさせて頂きました埼玉県商工会議所青年部連合会にとりまして、この全国大会開催は永年の『夢』であり、どうしても実現させなければならないコンベンションでありました。大宮市政施行50周年、大宮YEG設立30周年という節目の他に、政令指定都市実現へ向けてのよきな第一歩としての意味合いもあります。5年前から誘致活動をスタートさせ、県庁建への出向き、市長、議会、商工会議所、商工会、青年会議所、ボランティア、市民の皆様方に、ご理解、ご協力を頂いてきました。

『直接交流』『直接実感』『一期一会』の開催キャッチフレーズのもと、『第15回商工会議所青年部全国大会・大宮大会』を大成功のうちに無事終了することが出来ました。

これも偏に全国YEGメンバーの友情のお陰であり、埼玉県を始めとする関東地区役員の皆様方のご支援、ご協力を頂いた賜と深く感謝申し上げる次第です。

主管をさせて頂きました埼玉県商工会議所青年部連合会にとりまして、この全国大会開催は永年の『夢』であり、どうしても実現させなければならないコンベンションでありました。大宮市政施行50周年、大宮YEG設立30周年という節目の他に、政令指定都市実現へ向けてのよきな第一歩としての意味合いもあります。5年前から誘致活動をスタートさせ、県庁建への出向き、市長、議会、商工会議所、商工会、青年会議所、ボランティア、市民の皆様方に、ご理解、ご協力を頂いてきました。

しかし、その反面には、行き届かなかったところ、ご迷惑をおかけしてしまったところもありました。この場をお借りして、お詫びを申し上げお許しを頂きたいと思います。

本当に、お能様で皆様のご協力が得られ、大会史上初の4000名に達する程の登録者数と317単会という参加単会数があったことは、主管をさせて頂いた埼玉県商工会議所青年部連合会の誇りであります。最後に、貴重な体験や経験をさせて頂いたこの全国大会開催に感謝し、更なる発展を期待して次年度開催地の奈良YEG並びに平成9年度の徳島YEGに心からエールを送りたいと思います。本当にありがとうございました。

しい思い出となっております。

また、この大宮大会では15対1除の全国大会の模範としていただけるように新しいスタイルの提案をさせていただいたつもりです。

その1が、阪神淡路大震災で被害にあわれた方々への「黙祷」でありました。色々な方々から意見をお伺いしましたが、昨年の長崎大会1対除の1年間の時の流れ、時代背景として、どうしても外すことは出来ませんでした。

また、その2として、前年開催地の長崎から受け継いだ「全国大会スピリット」を大宮で開花させるという願いをこめた『大会旗』の入場は「YEG連携」を掲げる辻会長のスローガンの意を汲んで取り入れました。そして首都圏という新しきの表現として「尾崎紀世彦」による国歌斉唱に表すことが出来たと思っております。

日商・稲葉会頭との懇談会

商青連　専務理事
石原　将宏

商青連出向者にとって、日本商工会議所会頭との懇談会は大きな楽しみの一つであります。日本の経済界を代表する稲葉興作会頭と懇談するこの1時間余りの貴重な時間をどの様にはこぶか、その段取りを決める私にとって大変緊張を伴うものです。

初代、日商の会頭を務められたのは、法沢栄一翁、日本に、商工業者の社論を代表する機関として、欧米に習って創設されたと聞きます。この懇談会で全国の若手商工業者を代表する声を会頭にお聞き頂けたら、また、会頭から見識の一端示唆に富むお話しをお聞きできたら、共に、有意義な時間とすることができるのであります。

参加者は、辻会長以下24名でした。伊勢崎の熱田利春君、小田原の鈴木摘弁君からはそれぞれに絞われている商品を提供いただき、話の切り口にさせていただきました。

冒頭は、東海ブロック代表刑事、飯塚清志君の創業者支援について、中堅区副会長、角田智敏君の中小企業の株式公開の問題点について、郡修第一委員会委員長、長谷川義信君の地場産業方物を取り巻く環境への対応について、松田祥吉副会長の女性パート社員の現状と大店法について、河井孝彦特別委員会委員長からはYEG連携事業についてありました。

それら多岐にわたる話題に、会頭は一率に、時にはユーモアを交えお話しになり、懇談会は和やかなものになりました。

ただ、今年度開催している連携事業については、自企業の経営の体多様な時代に、「センチメンタルな連携では駄目だ」と指摘されました。反論もあるでしょうが、言葉で納めくくられましたが、謙虚申し上げご理解いただきたいところでした。

会頭の言葉の響きに、日本経済の厳かれている厳しい状況を踏まえ、若手経営者への叱咤激励を受け、期待の大きなかとかしさを感じられているところに、先達としての愛情を感じました。

今後、この懇談会が回数を重ねる中で、より一層、法沢栄一翁が目指された商工会議所設立の精神が発揮される場となることを来年度出向される皆様にお願いして、報告とさせていただきます。

新宮（和歌山）で中央研修会

「地域連携」テーマに活発討論！

2月7、8日、和歌山県新宮市において、第13回中央研修会（新宮市民会館他）が開催され、参加者数（延べ）214、登録者数86（うち5いずれも主管単会含まず）を数えた。

研修は、式典に始まり、江三統会長による「耕け！感性、拓げよフィールド YEG連携時代」をテーマにした基調講演、松田神治次年度会長の講演「平成8年度商青連活動について」が行われた。

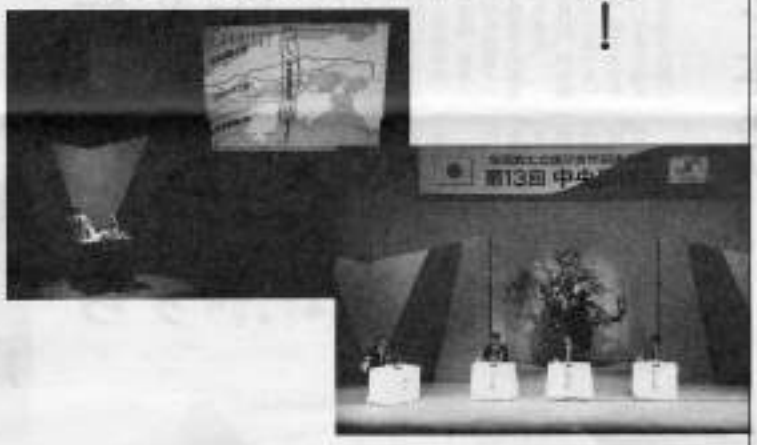
次年度開催地の紹介に続いて、今年度のテーマ「地域連携」に沿った講演「新しい国土軸」（講師・コ藤真紀国土庁総合交通対策課課長補佐）が行われ、国土軸と将来的な地域連携の在り方を示唆した。地域連携の事例発表として、秋田YEG、津YEG、高知YEG、鹿児島YEGの報告と続き、休憩の後、清水浩志郎氏（欧田大教授）、三浦真紀氏、江会長をパネラーに、賢来新聞商青連副会長のコーディネイトでパネルディスカッションが行われた。

会場を新宮市民会館から総合体育館に移動後大交流会へ。ここでは、地元の名産「めはりずし」、「サンマずし」、地元子ども会の協力による郷料理などが振る舞われ、マグロの一刀づくりでムードは最高潮に達した。

さらにこの後、新宮市の飲食街と勝浦温泉に分散、それぞれ二次流会が開かれ、コミュニケーションが図られた。

研修2日は、予定されていた鳴島甚一氏が急な公務のため欠席、その代理として伊藤忠商事機械部門の森岡正憲氏による記念講演「激速の時代における通信戦略」が行われ、感会のうちに閉会した。

人口3万5000人規模の都市で行う初めての中央研修会であり、また、交通アクセスなどの面で悪条件下での開催であったが、約1年半にわたる地道なPR活動と、開催1ケ月前に各単会会長への電話要請などが実を結ぶとともに、「地域連携」という実践的テーマに対する会員の注目度が高く、うまくかみ合った結果、成功裡に終りました。



優秀10誌を表彰

平成7年度会報コンクール

商青連加入の単会等を対象にした「平成7年度会報コンクール」が行われました。

今年度は応募総数77点、全国の単会及び単連より応募頂き、入賞作品の表彰が2月の会員総会の席上、とり行なわれました。

審査員として、商青連の正副会長ならびに商青連広報委員会により、必要な情報をいかにタイムリーに会員に提供しているか・また、読みやすさ・レイアウト・紙面内容等を審査基準としました。

今回ご応募頂いた作品の中には、入賞作品以外にもたくさんの優れた作品があり、レベルの高いコンクールとなりました。

会員相互の連絡・コミュニケーションの場としての機関紙的あり方とまた、我々青年部をとりまく皆様への広報的なあり方など、会報は私たちの活動になくてはならない情報発信のひとつであります。ぜひすばらしい会報を今後も創りつづけていただきたいと思います。

平成7年度商工会議所青年部会報コンクール

入賞作品

（優秀作）

青年部	都道府県名	会報名
秋田	秋田県	YEG NEWS あきた
山形	山形県	ザ・青年部
富山	富山県	Active 高岡 高岡 なんせやらんまいけ！
中野	長野県	NEWS
半田	愛知県	縁（えにし）
武生	福井県	ぼやぼや
奈良	奈良県	NEWS なら太鼓
下関	山口県	遍海（KENKAI PRESS）
丸亀	香川県	SEINENBU NEWS
豊前	福岡県	とげちこげち PURE TOWN

打てば響く太鼓のように！

商青連全国会報コンクールを5回連続受賞して　『NEWS　なら太鼓』

奈良商工会議所青年部

「おーい、この子例で読むんやー」「だれや、この文章書いたのは、意味通じないぞー」「ワー！！　原稿にコーヒーこぼしてしもた！」ワイワイガヤガヤ……我が広報委員会の「こまでした」こんなドタバタ劇を繰り返しながらもどうにかこぎ着けた発行日。そしてイチかバチかの全報コンクールへの申し込み。優秀賞が頂けるなんて涙が出るほど光栄です。これもひとえに、先輩諸兄がこれまで培われてきたご努力と関係各位の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

私達の「NEWSなら太鼓」は、昭和62年に青年部創立10周年を記念して発刊されました。そして今年で9年目を迎えることになります。「なら太鼓」といえばおよそ広報紙らしからぬ名前に思われますが、創刊当時、「諸先輩方が百花繚乱の末、二打てば響く太鼓のように」ということで今の「なら太鼓」という名前に決定したと聞かされております。もっとも、これまで引き継いでまいりました奈良YEGの看板としての「太鼓隊」もこれをきっかけに再興されたことはいうまでもありません。

さて、ご承知のように商青連全国大会奈良大会が、いよいよ本年11月に開催されます。この一大イベントに向けて、われわれメンバーは、心ふるまさに一致団結し、その準備に、未体験の仕事にと取り組んでおります。

心のふるさと・奈良、歴史の宝庫・奈良、われわれメンバーは「心の故郷」をモットーに「あぁ、奈良に来て良かった」といわれるような大会を目指していきたいと思います。

今紙の受賞を弾みに奈良YEGはさらに熟・熟・熟えます！

本当にありがとうございました!!

広報委員長　辻谷靖行

特集　全国各地の青年部活動レポート

『研 け感性、拡げよフィールド、YEG連携時代！』

インターネットが世界を結び、マルチメディアが"生活革命"を
もたらすであろう21世紀。でも、やっぱり人間が中心、地域が原点。
YEGは全国各地で連携するヒューマンネットだ。
北から、南から心に響く熱いメッセージが届きました。

トンネル開通で連携事業

帯広YEG●北海道ブロック

帯広と浦河では3年前からおたがいの地を訪れ、それぞれの地域について理解を深めてまいりました、と言うのも、北海道の真ん中を貫く「日高山脈」を横断するトンネルが開通することにより相互の地域が「山の向こう側ではなく隣の町」になるからです。

「野塚トンネル」と呼ばれ、開通すると全国で5番目、延七口上では最長のトンネルになります。帯広～浦河間の距離を約50㎞短縮し、現在約3時間かかるものが2時間を切る距離になるものと思われます。

帯広と浦河のYEGでは、トンネル開通後の経済面や人的な交流の促進と、相互の地域特性を生かしたニュービジネスの創造に期待し、YEG同士の交流を続けて参ります。昨年も11月11日に交流会を開催し、今回は帯広での開催であったことから、完成したばかりの「ことかちプラザ」などの施設見学や交流会議を開催、それぞれのYEGから「地域連携事業委員会」のメンバーを活し合い、今後の事業活動の具体化をすすめていくこととなりました。テーマは「野塚トンネル開通イベント」に焦点を当てて、「トンネルの開通時にお互い協力して何かイベントをやろう！」ということで、その内容について意見を出し合いました。

行政の壁を越えた「地域間連携」の先駆けとして、管轄方には「遠い、遠い、北海道」でも同じYEGとして実現に向けて、がんばりたいこと、ここにご報告させていただきます。

まちづくりは青年部の行動から

湯沢YEG●東北ブロック

当青年部は昭和44年3月湯沢市商工会青年部として発足し、平成7年4月商工会議所移行に伴い、湯沢商工会議所青年部として新たにスタートしました。現在の会員数は62名でまちづくり交流・イベントの3委員会から構成されています。

主な事業としては会員の資質向上を図るための経営塾・講座等の研修会、メンバー内の親睦はもとより同じ地域の商工会青年部・農業団体との交流、夏祭のお祭りに合わせた協賛イベントの開催等数多くの事業を展開しております。

今年度6月に、16日間（元禄の昔より、約360年もの長い間続いてきた湯沢地方の民俗行事）の2日間に清酒200本の月酒試飲、馬ソリの運行、物産販売を実施しました。湯沢は「東北の微」と称される酒どころでメーカーの協力を得、EFBしました。また、地域連携和の関係で山形より玉コンニャクを仕入れ「ちびまるコン」の商品で2500本完売しました。

当市でも人口減・高齢化の現在、青年部は経済活動を通じて積極的に広域的なまちづくり（施設を含め地域連携和の強化等）を行政に提言する責任があると感じ、会員一丸となって行動をと思っています。

発展するベトナムを体感！

燕YEG●北陸信越ブロック

燕YEG（会長山崎栄一、会員53名）では2年に一度海外視察研修を実施しております。これまでに中国（広州・深圳）、アメリカ・タイ・マレーシア、中国（北京・天津）を訪問し企業視察等を行ってきました。5回目となる今回は11月23日（土）～26日（日）の日程でドイモイ政策により発展著しいベトナムを訪問し、現状とビジネスの可能性を探りました。

燕YEG（会長山崎栄一、会員53名）では2年に一度海外視察研修を実施しております。これまでに中国（広州・深圳）、アメリカ・タイ・マレーシア、中国（北京・天津）を訪問し企業視察等を行ってきました。5回目となる今回は11月23日（土）～26日（日）の日程でドイモイ政策により発展著しいベトナムを訪問し、現状とビジネスの可能性を探りました。

経済の中心ホーチミンではプラスチック射出成型工場、プラスチック金型製造工場、ステンレス鋼・ケトル・浴室設備製造工場の3企業で労働環境、労働条件を視察した後、タントロアンで輸出加工区、SCCI（国際商社現地事務所）など関係機関を訪問し投資の現状や条件等を伺いました。

また政治文化の中心ハノイでは、ベンチ・スパイの工員製造工場等4企業と丁字RDOを訪問しレクチャーを受けました。

安全に戦争を終えてから、まだ8年とは思えないほどに町は活気に満ち溢れ、猛スピードで発展するベトナムを肌で感じることができ意義ある視察研修となりました。

「連携」青年3団体による"たけふ冬遊"まつり

武生YEG●近畿ブロック

武生YEGでは、暗く寒りがちな福井の市民生活を変革し、雪に親しみながら地域を活性化することを目的として、市民相互のコミュニケーションの場を提供し、冬を彩ることで私たちの願いを実現したいと考えています。

また、（社）武生青年会議所、武生市連合青年団に呼び掛け、武生市内の青年3団体で構成する連絡協議会の「たけねっと」（武生青年ネットワークの略）を結成しており、毎年、たけねっと、が同じテーブルにて協議し、活動することで友情を確認しています。「たけふ冬遊まつり」もこの「たけねっと」がすべての企画・立案・運営を担当しており、毎年2月に開催されて、今年で9回目をむかえました。

今年のメイン事業は「武生王決定戦」でした。簡単な10種類のスポーツ、ゲーム、クイズを行い、その総合得点により優勝チームを決定しました。その他、各種のコーナーがあり、大変な賑わいでした。また、フラワー都市交流で姉妹のある各都市から、今年も鯖江、鳥羽の児童を招待し、雪を見たことがない子供たちに感激をおみやげに持って帰ってもらっています。

またその他にも、行政の壁を越えた地域連携面を構築すべく3市11町村の青年経済人との交流及び活動も積極的に展開しております。

よく遊びよく学ぶ

徳山YEG●中国ブロック

徳山YEGは今年で20年を迎えます。現在、会員数119名、119名を超えれば、ユニークなアイデアマンもいれば高齢者も多数おり、県内では徳山はどこか遠うと高いなと評価を得ているようです。ただ今年度幹事会者（満46歳に卒業）が10名もいるので会員増強中です。地元では青友会の別称で通っており、木村健一郎会長のもと、総務・周南のまちづくり・親睦・研修・行事の5委員会で活動しています。

年間の活動は総会に続き一泊新年親睦旅行、大徳山夏まつり（応援、家族会、徳山冬のツリーまつり（主催）の順に2ヶ月に一回の例会となっていますが、昨年は県青連ソフトボール大会を引受け、そして東日本ハウス検会長中村功氏の講演会も企画し、両方とも成功したと自負しています。

さて現在の課題ですが、一時期活動が停滞していましたが、6年前より再び活性化してきました。当然の如く活動費が不足し、今の年会費3万円では既に限界とも思えます。また、他のYEGでも時々耳にしますが、当会リーダーと両方在籍している会員も多く、時々支障をきたすこともありますが、今後もYEGならではの良さを内に外にとアピールし続けていきたいと思います。

夏祭りは青年部「サマーフェスタ」で！

小林YEG●九州ブロック

今年で8回目となった青年部「サマーフェスタ」が、8月4日に市商連の花火大会と合同で開催されました。

当初は出店募集や出演者を集めるのに一苦労していましたが、最近は、農業青年層や各種団体からの出店希望もたくさんあり、コマ割りをするのに苦労するようになってきました。

また、今年は広場中央に櫓を作り、踊りで盆踊りをやったところ、若者がゆかた姿で参加したりして盛況でした。

青年部で実施した、「ミスタードーナツ」販売所では、13コスセットで1000セットを完売して、祭りの後半では売り切れとなり、お客様にお断りする一幕もあり、これも大成功でした。

写真は、オープニングセレモニーで活躍してくれた佐賀南高校の「踊り太鼓」です。

祭りの最後は恒例の青年部主催の抽選会でしたが大いに盛り上がって終了となりました。

日本一星のよく見える町です。是非、一度お越し下さい。

集まれ、全国の龍馬ファン「龍馬倶楽部」を設立

丸亀YEG●四国ブロック

月の名残で有名な桂浜に4年前坂本龍馬記念館が建設されました。当青年部を中心とした高知県青年11団体の募金活動が全国の多くの皆様にご賛同いただいた（約10億円）賜物です。その額はありがとうございました。

さて、生誕160年にあたる昨年11月15日に当会は、龍馬倶楽部設立準備会を発会し、本年4月1日「龍馬倶楽部」設立に向け現在全国から会員を募集いたしております。

多くの人々と交流を深め、共知を育て合うとともに、坂本龍馬の精神を継承し、次代を担う有為の人材に資するべく広く全国に情報発信いたします。

「龍馬倶楽部」の主な内容は、記念館の入館が無料となるほか、各種イベントや情報のお知らせ、会報送付等、全国の龍馬ファンのネットワーク作りを目的としております。

坂本龍馬は、日本の大きな変動の時代である幕末に、日本の夜明けに向かって奔走した志士たちの代表であり、多くの人々の心をかも熱くする時代の象徴でもあります。龍馬の好きな人、ぜひご入会ください。

年会費2000円、入会金500円（青年部担当／中越　久保　☎0888－75－1177）。

注目のイベントで中心的役割を

豊田YEG●東海ブロック

豊田市工会議所をはじめ17団体主催により、地域経済圏の農産物・商工業品及び伝統技術等を一同に会し広範な市民等と産業のふれあい・交流を通じて都市の活力の高揚に努めるとともに、現況の国際経済環境を踏まえて、より積極的な輸入拡大を図るため、「輸入品」を強く意識して国際協調の御国に資する、を趣旨としてインポートフェア&産業展とした95が、秋真っ盛りの11月に開催され、3日間で、延べ13万5千人の入場者と約1億円の売上高を記録しました。

私たち豊田YEGらも企画ばもとより、準備・運営に至るまで中心的な役割を積極的に手がけ、多くの市民からの歓迎を受けました。

イベントは、「手作り」かつ、市民参加」を大前提に万人が参加可能で身近なゲームとして、国際貢献と環境保全をテーマに、使用済テレカ・プリカ・アルミ缶持参者に出場権を与えた「ビンゴ大会」、市教育委員会と協力して小中学生を対象にした「クイズ・オリンピック」、そして、年々参加者も増えて市民権を得た感のある「ジャンボ餅大会」を実施し、イベントだけでも1万8千人の参加があり、大盛況のうちに幕を閉じました。

「歴史のある街」マンガで表現

石岡YEG●関東ブロック

当青年部（浦口支会長）では、石岡商工会議所の創立40周年記念事業の一環として、このほど「マンガ歴史遺産」を制作しました。

石岡市はその昔、常陸の国府」の「国府」が置かれ、現在は、茨城県の「歴史の里」と言われています。

あちこちで「まちづくり」が叫ばれていますが、我々は若々青年部として何をすべきか、何ができるのかメンバーで議論をしていました。

その中で、「歴史のある街」「暮らしのいのち」街である石岡の歴史を知ることは、石岡の未来を創造する一つの「カギ」になるのではないかと考え、21世紀の担い手である子供達に、石岡の歴史遺産や風土、文化をわかりやすく、楽しく理解してもらうため、マンガで制作することとしました。

制作されたこのマンガ本は11月に行われた「石岡商工会議所40周年記念式典」でお披露目し、全会員事業所はもとより、市内小学校全児童に無料で配布され、マスコミ等でも大きくとり上げられる高い評価を得ることができました。

毎年、3月には「石岡のおまつり」が行われます。是非おいでください。

特集
YEG連携事業

13市町村が広域連携

八戸YEG

青森県八戸YEGでは、南部地方の地域振興と経済発展を図る事を目的として13の市町村の商工会議所・商工会が中心となって発足した「南部圏まちづくり推進協議会」に参画した。これは地域の壁を越え、各自治体と協力して広域連携を創る一つの例であろう。その具体的事業としては

①13市町村の特産品をあつめた「ナニャドラヤ通道・南部圏ふるさとフェスタ」②歴史と文化を訪ねる「ナニャドラヤ地道・ふるさと新発見バスツアー」③スポーツ振興を兼ねて圏域の健全な人的交流を図る「ナニャドラヤ通道・長でつアイスホッケー大会」④各市町村に伝わるせんべい汁一堂に食する「せんべい汁の祭典」⑤自然と調和し美しい南部圏をつくる南部花回廊構想の啓蒙「フラワーロードコンテスト」・「フラワーフォートコンテスト」の実施等を行った。

これらは①地域振興②意見交換③圏域商工業者相互に連携を図るための事業を三つの柱として地方の21世紀に向かってのプロジェクトを踏まえ地域づくりと新たな経済振興のための諸事業を民間サイドで推進する基本に展開された。

このような広域事業は各地で実施されているが課題も多く、特に官民一体となった展開が理想ではあるが民間サイドの行政枠を超えた活動に対し、市町村行政のより一層の深い理解が必要とされる。八戸では推進協議会発足から4年を経過し、徐々にその主旨が浸透し、行政が理解を示しはじめているが、まだ調整課題も多く、その壁を青年部等の力で超え、息の長い事業の展開が期待される。

目指せコミュニティFMネットワーク

いわきYEG

福島県いわきYEGは、市としては全国一広いいわき市においてその地域に密着した生活情報、市政情報、防災情報、観光情報や地域産業の活性化情報などを30万市民の唯一の共有メディアとして「地域情報」をテーマに「FMコミュニティ放送」に取り組んだ。本事業は同一地域において行政ばかりでなく青年会議所を含め独青年団体や民間有志の協力のもと、団体の枠を超えた地域活性化にチャレンジした事例といえる。

この事業の実施は平成4年1月、いわきYEGより「サンシャイン21、2000年構想」のなかで地域振興室FM局の必要性をいわき市長に提言したことからスタート。平成6年8月5日初めての電波を送信した。翌年の7月から10月まで福島県国体に合せ「いわき市国体実行委員会」から市民参加の秋季国体の実現と広場基子や市民、そして訪れる方々への情報提供の役割を果たすべく業務委託をうけ、地域コミュニティの交流を図った。その母体はいわきYEGが中心となった「Sea Wave FMいわき研究会」である。

コミュニティ放送事業は、地域間の情報交換による、新しい「人」「物」「情報」の交流連携を確立し、地域の「今」から「未来」に向けた、新しいメディア事業であります。それは市民から情報を吸収し、電波に乗せることで双方向の情報発信が出来るようになり地域情報交流ネットワークの構築の可能性が高くなります。そしてその活用が次代を創る若者に夢を与え、「まちづくり事業」としての意義を持つものと考えます。皆さんも本事業に興味がある方は是非いわきYEGにお尋ね下さい。

『疎水』をテーマにスクラム

大津YEG
京都YEG

明治時代初期、東京遷都で沈滞化した王都の街を活性化させるための方法を先人たちは考えました。その結果、明治18年に水道、発電、物流、かんがい等、多目的利用を目的とした「琵琶湖疎水事業」に取り組かったのです。事業は3年間で完成し、世界で初の水力発電の実用化に成功、京都には電灯がつき、市電が走り、上下水道が確保されるなどみごとに京都の街の復興につながったのです。

それから一世紀余、時代の移り変わりとともに現在疎水は京都市の管理となり、水道水と若干の発電にのみ利用されています。かつては荷物を積んだ船が往来し、物流のみならず人の交通路として活用されていましたが、かつて人々が遊んだ船下りも現在は許可されず、滋賀・京都の県民や府民だけでなく観光客にとも親しみの薄いものになっています。

商工業をキーワードとして地域活性化を目指す、大津・京都YEGでは平成7年5月京都市の助役さんにも乗って頂き、久しく途絶えていた船下りを再現、明治の先人が考えたように「琵琶湖疎水」の今後の展望を含め、疎水連携事業として行政と共に、この利用促進を考え、観光産業や商業事業のより一層の発展策を練っています。

YEGビジネス交流プラザ

このコーナーは、
会員の皆様の情報交流の場として
活用していただいています。

昨年開かれた大宮の全国大会で行われたビジネス交流プラザには、大変多くの皆様の参加をいただきました。

全国の会員のネットワークを活かした営業活動・企業PRなどの情報発信にどんどんご利用ください。

新製品の紹介、販売代理店の事業などの営業活動や企業PRなど記事の掲載については次のとおりです。

●掲載申込方法

原稿として、官製はがきに①「販売代理店募集」「企業PR」「交流・活動」を明記のうえ②商品名（または会社、団体名）③セールスポイント（メッセージ）④連絡先「住所、氏名（会社名）、TEL」⑤青年部単会名、氏名ーを記入してお送りください。

●送り先

〒100　東京都千代田区丸の内3ー2ー2、日本商工会議所中小企業振興部内、全国商工会議所青年部連合会「広報委員会」宛。

●おことわり

本号で掲載いたしましたものは、昨年のビジネス交流プラザの情報となっているものをもとにしています。

なお資料提供等の連絡につきましては、直接、当事者同士で行ってください。

（商青連・広報委員会）

めざせ3万人の連携軸！

商青連副会長　賢木新悦

平成7年度、辻正敏会長はYEG連携を唱え、4月から全国行脚を始め、1年過ぎようとしている。

世界から絶賛された日本経済の高度成長もバブルの崩壊以来、頭死の重傷を負っている。地方都市の中心商店街の空洞化が進み、コミュニケーションの場としての街がなくなり、その土地の文化が消える危機にある。製造業においても円高や高い人件費で国際競争力を失い、企業の存続に危険信号が灯っており、中小零細企業にとって厳しい状況である。しかも、厚生省の人口推移によると、21世紀へ向けて急激カーブでの人口減が予想される。この事は高年齢化が進み、税収不足や社会保障負担等大きな社会問題に成りかねない。

こうした中、我々中小零細企業を経営している青年企業人はどうすればいいのか。商青連は連携全国展開した。高速交通網の整備が進み、企業活動が増え、情報受発信の量が多くなると人々の交流が盛んになる。我々はYEGというネットワークを使い、交流から連携へと発展させ、地域活性化や企業の展開をはかるべきである。

手法の一つは、隣接する市町村との連携である。一市町村で出来ない事業や公共施設の無駄を無くす事は、隣接市町村が一体となって進める必要がある。

また、自企業にとって業務の提携や合併・情報交換などは、隣接YEGと積極的に行うべきであると思う。

その二つは、全国408単会と3万人との連携である。YEGの運営にはそれぞれ強みがある。全国のネットワークを利用した事業の事例や、歴史文化の類似したYEGの情報交換、企業の共同仕入、経営のノウハウの勉強会の共同開催等、YEGの積極活用が期待される。YEGだからこそ交流連携が出来るのです。その要素として、①行政の壁がYEGにはない。②グローバルな視点がある。③ベンチャー・ニュービジネスに取り組んでいる。④ネットワークが良い。⑤遊び心がある。

ただ、心配が無い訳でもない。それは経済の大小や産業力の強弱によって、スポイル現象が起こる事である。両都市や両企業が互いに向け合ってこそ良好な関係が続く。また、地域のアイデンティティや企業のアイデンティティがなければ、役割分担による連携は厳しいという事である。是非自分の住む地域の誇れる地域資源を見つけてほしいものである。

間もなく訪れる21世紀、その時に安心して快適に過ごせる地域を築く為に、連携事業に取り組んでほしい。

企業PR・販売代理店募集

要　項	連絡先	電話番号	単会名
視力回復トレーニングセンターのFCと展開	㈱タイケイ教育	0725-46-1696	和泉
個人別オーダーメード育毛剤	㈱桂司商店	0245-53-0651	福島
インターネット・アンケート調査	タカラ印刷㈱	0245-46-0322	福島
華厳書道用品販売	㈱文玉堂	0742-22-4318	奈良
せゃびてる情報処理サービス	㈱ファクト企画	053-585-6926	浜松
高級盆栽用肥料	㈱ソウワ	053-473-6580	浜松
長崎チャンポン・皿うどん	㈱みろく屋	0958-46-3698	長崎
EMセラミック商品	丸石原業資料㈱	0561-62-2416	瀬戸
DIY販売・水処理	ダイキ㈱	0899-75-1111	松山
絵ローソク製造販売	小池ローソク店	025-361-3044	南田
金属製品及びパーツ製造販売	㈱日本メタルワークス	0256-63-3611	燕
ユニークなカタログ販売を全国に展開・取り扱い販売店募集	BTネットワーク新潟㈱	0776-23-1248	新潟

ヒューマンネットで未来にアクセス、集え まほろば！YEG

平成8年度全国大会は奈良市で

平成8年度「第16回商工会議所青年部全国大会」は奈良県商工会議所青年部連合会主管のもと、奈良市において開催させていただきます。

「奈良県」と言えば皆様はまず何を思い出されますでしょうか？そう奈良県には東大寺の「大仏様」をはじめ、世界最古の木造建築で有名な「法隆寺」、奈良公園の「鹿」、「正倉院」、「三笠山」などの神秘の世界！数えればきりがないくらい仏教美術や文化史跡、名産品があるのです。

万葉のふるさと「奈良県」はかつて日本の都があった藤原京・平城京を擁し、「日本文化の発祥の地」として今もその歴史と伝統が息づいており、世界に誇れる国際文化観光都市となっています。

一方、私たちのふるさと「奈良県」は21世紀に向かって、今新たな役割を担おうとしています。平成6年9月に開港した関西国際空港、そして現在も建設が進む関西文化学術研究都市といった国家的プロジェクトの完成を間近に控え、歴史と文化と先端技術が調和した「未来都市・奈良県」の創造がテーマとなっているのです。世界の人々が集いあえる、心豊かなコンベンション都市「奈良県」を目指して、今「21世紀の郷づくり」が始まっているのです。

奈良県商工会議所青年部連合会では、明日の地域社会を支える青年団体のリーダー役として重要にこのテーマに取り組んでいます。

そんな私たちの活動を、全国のYEGの仲間に知ってほしいし、また伝えられる絶好の場として全国大会開催を実現高揚することを、心より喜んでいる次第であります。

国内経済は空洞化、国際化、高度情報化、高齢化等、これまでに経験のない厳しい環境におかれ、ますます企業経営の方向づけが難しい世の中になって参りますが、企業と地域社会の次代を担う青年経済人同志が互いに交流を深め連帯の輪を広げることにより、豊かで活力のある次の時代が創造できるのではないでしょうか。

故きを温ねて新しきを知る、どうかこの日本のふるさと「奈良県」へお越しいただき、何か新しい発見、新しい奈良県を見つけて下さい。私たちが心をこめてお待ちしております。

大会実行委員長　乾　安彦

一年間、連携推進で奔走!!

平成七年度会長・辻　正敏

「改革の時から「明日への創造」の時代を経て本年度会青連は、自律（立）、行動、そして連携をキーワードに「続け感性、広げるフィールド YEG連携時代」をスローガンといたしました。連携は、まず自会員と存立基盤である地域の自律（立）から始まり、今までの枠組みを越え、広く情報受信していく中に、その窓口が必ず存在すると確信し活動いたしました。

そのような中、全国の商青連出向の皆様の出身会議所をはじめとして、延べ1万を超える街を訪問させていただき、いろいろなことを教えていただきました。

また、新しい流通形態を見せられた「米国視察研修」それぞれの思いを抱いた「各地ブロック大会」、少数対象で相撲見物会開催名の「朝牛塾」、初めて連産省の後援を得、4000人の参加をいただくなか、物産展、ビジネス交流プラザも好評だった延べ第六回での「全国大会」、全国のYEG会長様に集まっていただき連携の実績と次年度体制への継承を行った和歌山県新宮市での「中央新幹会」、著名な全国の会報が集合した「会報コンクール」、YEG活動をより円滑に行うため最後まで活発な意見交換の行われた「規約改正」、通年にわたって全国を奔走した「YEG連携事業」の推進活動、そして本紙「明生」の発行等々、内外にアクティブに活動した組織改革元年でした。

4人体制になった副会長、幹事連運営の要となった専務理事、ブロック大会の推進役となったブロック代表理事、事業実践に精力をつぎ込んだ委員長、委員会や役員会を支えた理事の皆様、要望を受けた総評の監事、そして貴重なご意見をいただいた前出会長・顧問、増大する事務量に難色を示しつつ取り組んでくれた事務局の皆様、最後に商青連に厚い声援と多大なご協力をいただいた全国のYEGの皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

1996年.11月14日(木)～16日(土)
■主催／全国商工会議所青年部連合会・日本商工会議所
■主管／奈良県商工会議所青年部連合会
■開催地青年部／奈良商工会議所青年部

EDITER

はじめての出向でいきなりいただいた広報委員長という大役をなんとか果たすことができ、ホッとしています。皆様のご協力と友情に感謝致します。

古泉幸一（亀田）

大海に
星を追ふも　君の道
何を頼むや　明生の友

小野新治（武生）

辻会長を始め、まくの人達と出逢い色々な事を学びました。今後は自分自身が実行する事と考えます。本当に楽しい一年でした。ありがとうございました。

大西　栄（美唄）

頑張ってください。ご協力ありがとうございました。一年間、楽しい広報委員会でした。

渡邊裕司（九州）

山崎委員長のもと、楽しい委員会でした。皆様のおかげで無事一年終りました。ありがとうございました。

橋本安彦（久留米）

初出向で組織等ゼロからの始動でした。全国大会・中央新幹会開催地決定規則は良い方向だと思います。ご協力ありがとうございました。

阿部和夫（浜松）